

大阪湾の磯の生き物観察シート

No.15 ムラソイ

大阪湾では約 10 種のメバル類が見られます。メバル類の成魚は磯では見られないものも多いのですが、ムラソイでは、ほぼ成魚と思われる比較的大きな個体が、磯の周辺の浅場でも観察されます。メバル類は体の斑紋、ひれの形や条数など色々な特徴により分類されますが、種内でも個体による違いが大きく、同定は簡単ではありません。

ムラソイの特徴として、頭部に棘が発達すること、眼の間が凹むこと、眼の下の骨に不明瞭な棘が 1 本あること、体の中央・中央後方・尾びれの付け根付近に帯状の斑紋、尾びれに暗色の斑点を持つこと等があげられます。これらの特徴のうち磯の観察で同定に役立つのは体の斑紋です。斑紋は、死んでしまったものや標本の写真（下右、田倉崎海岸、新鮮な個体）ではわかりにくいのですが、磯で観察できる生きた個体では、はっきり確認することができます。下図の上 2 枚の写真は 2020 年 6 月 7 日に田倉崎海岸（和歌山県）の磯で観察、撮影した個体です。なお、ムラソイは大阪湾南東部では田倉崎海岸以外の磯でも観察されています。このように、フィールドでの生きた個体の観察はその生物の特徴を知るのにとっても役立ちます。

ムラソイの小さな個体（下左、明神崎）では、尾びれの暗色斑点は不明瞭ですが、各ひれが赤味を帯びています。大きくなるにつれ、ひれの赤味はなくなるとともに、尾びれの暗色の斑点が目立ってきます（下中央、長崎海岸）。磯に生息していたムラソイは成長するにつれて深みに移動するようです。体長は 30 cm くらいにまで成長します。深みに移動した大型の個体で、生きていたときの斑紋がはっきりしているかどうかについては、確認が必要です。

参考文献

波戸岡清峰, 2013. 大阪湾メバル図鑑. Nature Study, 59 (9): 114-117.

Kai, Y. and T. Nakabo, 2013. Taxonomic review of the *Sebastes pachycephalus* complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Zootaxa, 3637 (5): 541-560.

